

6. 当センターの今後についてご意見を伺います。

6-1. 新しい分析装置が導入されるとすれば、どのような装置を希望されますか？

a. ^{14}C が高精度・高確度に測定できる AMS3 号機 (測定可能な核種は ^{14}C のみ)
 b. ^{14}C 以外の核種も測定できる AMS3 号機
 c. 最新鋭の EPMA 分析装置
 d. 元素分析計とオンラインの IR-MS
 e. その他 ()

6-2. 上の項目1.でb.と回答された方にお聞きします。3号機が導入された場合、測定を予定されている核種はどれですか？

a. ^{14}C b. ^{10}Be c. ^{26}Al d. ^{36}Cl e. ^{41}Ca f. ^{129}I g. その他 ()

6-3. 本センターは、今後どのような点に重点を置き活動すべきであると思われるか？

a. ^{14}C や CHIME 年代の測定件数を増やし、依頼数の増加に対応する努力をすべきである。
 b. 測定数の増加よりは、測定法や試料調製法の技術開発に力を入れるべきである。
 c. 環境学研究科地球史学講座として、地球科学・環境学の研究および教育に力を入れるべきである。
 d. 文理融合型の研究および教育に力を入れるべきである。
 e. 医学・工学など新たな分野の研究および教育に力を入れるべきである。
 f. その他 ()

6-4. 本センターで今後推進すべき年代測定法についてどう思われますか？

a. 現在と同様、AMS ^{14}C 年代測定ならびにCHIME年代測定に重点を置き推進すべきである。
 b. ^{14}C 以外の核種のAMS年代測定にも重点を置き、CHIME年代測定とともに推進すべきである。
 c. AMSやCHIME以外の年代測定に重点を置き推進していくべきである。
 d. その他 ()

● その他、当センターに対するご意見・ご要望があれば何でもご自由にお書きください。

Fig. 1-b. Questionnaire form (page 2)

図 1-b. アンケート用紙(2 ページ目)

以下に、アンケートの結果を示します。()内の数字は、その項目に○を付けた人の数を表しています。

-----アンケート結果-----

● 回答者情報

学内(7), 学外(10)

当センターは学内共同施設ですが、現実には全国あるいは海外からの分析依頼も多く、今回、アンケートに回答して下さった方も、半数以上が学外の方でした。

● 研究分野

地球化学(3), 放射線計測(1), 古生物学(1), 地質学・岩石学(1), 建設(1), 科学(1)
 文化財科学(1), 海洋化学(1), 化学・古生物学(1), 古環境(1), ^{14}C での年代測定(1)
 考古学保存科学(1), 年測(1), 火山噴火史研究(1), 考古学・人類学(1)

さまざまな研究分野の人が当センターを利用していることがわかります。

● 利用状況(複数回答可)

1. 共同利用試料状況

木片(5), 植物片(5), 紙片(3), 泥炭(3), 炭化物(3), 岩石(3), 隕石(0), 鉱物(1), 堆積物(4)
 土壌(5), 貝(4), 骨・歯(5), その他(漆・鉄)(1)

さまざまな試料の分析が行われていることがわかります。

2. 依頼分析状況

^{14}C 年代測定(11), ^{14}C 濃度測定(4), CHIME 年代測定(4), その他の年代測定($\delta^{13}\text{C}$)(1))

3. 利用された時期

現在利用している(3), 今年度(0), 昨年度(3), 一昨年(0), 3年以上前(4), 利用したことがない(5)

4. 当センターの利用理由

学内で便利だから(3), 高精度な結果が得られるから(5), 測定費用が安いから(0)

測定結果が早く得られるから(0), センター教員との共同研究だから(6)

その他(学生の教育として(1), 地質学の基礎知識として(1), 仕事として(1))

センターを利用する理由としては、センター教員との共同研究だから、というのが一番多い結果となりました。アンケートを実施していない平成 22 年度を除く最近 5 年の回答結果の傾向を図 2 に示します。高精度な結果が得られるから、という理由が平成 21 年度まで減少していましたが、今回は増加し、当センターの利用理由として一番多い結果となりました。また、今回「その他」の割合が増え、研究だけでなく、教育や業務のために利用されたことが伺えます。

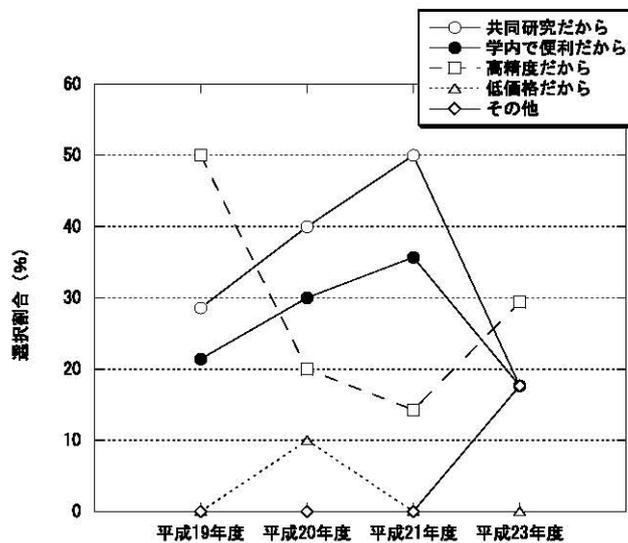


Fig. 2. Reason for selecting the Nagoya University Center for Chronological Research
図 2. センターを利用する理由

5. 当センターを利用した感想(2件)

- ・使い勝手が非常に悪い
- ・もっと広報されたら一般の人はまだまだ参加者は増えると思います。

6. 当センターの今後について

6-1. 新しい分析装置の導入について

- a. ^{14}C が高精度・高確度に測定できる AMS 3号機(測定可能な核種は ^{14}C のみ)(10)
- b. ^{14}C 以外の核種も測定できる AMS 3号機 (4)
- c. 最新鋭の EPMA 分析装置 (4)
- d. 元素分析計とオンラインの IR-MS (2)

6-2. 3号機が導入された場合の測定予定核種

^{14}C (4), ^{10}Be (3), ^{26}Al (1), ^{36}Cl (1), ^{41}Ca (1), ^{129}I (0)

上の結果から、大半の方が、高精度・高確度に ^{14}C が測定可能な AMS を希望していることが伺えます。 ^{14}C 以外には、 ^{10}Be 測定の需要があることがわかります。

6-3. 本センターの活動重点

- a. ^{14}C や CHIME 年代の測定件数の増加(4)
- b. 測定法や試料調製法の技術開発(11)
- c. 地球科学・環境学の研究および教育(4)
- d. 文理融合型の研究および教育(3)
- e. 医学・工学など新たな分野の研究および教育(0)

上の結果から、単なる測定数の増加だけでなく、技術開発に重点をおくべきである、という意見が多いことがわかります。自由記載欄に以下の貴重な意見が記載されていました。

- ・大学の組織として研究及び教育に力を入れるべきである。
- ・項目 a については民間の測定機関と変わらないので反対。
- ・項目 b については一部賛成であるが、国内外の他のラボとのすみわけが必要。
- ・項目 d については「文理融合型」というのは研究を進めていけば必然的にそうなるものなので、改めてこれを使うのは時代から取り残されている感が否めない。
- ・項目 cde については大学の一機関である以上教育は必要であると感じるが、一方で学部・研究科と切り離された年代測定の専門施設であるため、民間や個人レベルでできる研究ではなく、各分野の大型研究に繋がるような研究を進めるべき。案としては、共同研究や共同利用者らを中心に幅広い分野の研究者をよんだセミナーや勉強会を定期的で開催し、年代学を議論する中心拠点にする。

大学の組織として、個人レベルや民間ではできない研究、あるいは教育をすべきであり、日本における中核的な年代学研究・教育の拠点になるべきであるという有意義な意見をいただきました。今後の当センターにとって、非常に重要なことであり、是非とも推進していきたいと思えます。

6-4. 本センターで今後推進すべき年代測定法

- a. AMS ^{14}C 年代測定ならびにCHIME年代測定に重点(6)
- b. ^{14}C 以外の核種のAMS年代測定にも重点(3)
- c. AMSやCHIME以外の年代測定に重点(2)

現在の状況を維持し、さらに発展して行くべきであるという意見が伺えます。自由記載欄に

- ・ ^{14}C にしぼって研究員・先生方・学生も測定できる場とするとよい。

という意見も出されており、今後 AMS 3 号機が導入された場合、AMS 2 号機を教育や技術開発専用自由に使用できる装置にすることも可能になると思われれます。大学の機関でしかできない、大学だからこそ可能な研究・教育を実現するセンターをめざしたいと思えます。

● その他、当センターに対する意見・要望

- ・ ^{14}C 年代測定で地球化学などの分野でリードされるよう期待します。

以上のアンケートの結果から、センターの今後の方向性に関しては、現在推進している AMS ^{14}C 年代測定ならびに CHIME 年代測定に重点を置きつつ、さらに大学の機関でしかできない技術開発や大型研究プロジェクトを推進し、年代学の中核的存在の機関になることが求められていることがわかりました。センターの常勤教職員はわずか教員 5 名、技官 1 名であり、この構成員だけで個々になんばっても国際レベルの幅広い年代測定を実現・維持・発展していくには限度があります。共同利用者のご協力が必要不可欠です。どうか、今後もみなさまのご協力をよろしくお願い致します。

末筆になりましたが、今回アンケート回答をいただいた 17 名の方々に、厚くお礼申し上げます。